あ～絶景は何処に、北岳バットレス第四尾根登攀

日程：2014 年 9 月 13 日－15 日
メンバー：藤野（Ｌ）、國井（ＳＬ）、加藤、深澤淳、松山

報告：國井

２：３０、４：００出発のため起床。朝食を摂り予定通り４時、白根御池小屋を出発。まだ夜明け前、ヘッデンを点けて二俣へ。二俣よりまずは下部岩壁第五尾根支稜を目指す。Ｄ沢付近で綺麗な朝焼けを迎えた。良い天気で気持ちの良いクライミングの予感？

下部岩壁、第五尾根支稜付近に到着した頃には、すっかり清々しい朝。落石の来ない安定したところを探し、ハーネスを装着し準備をしながら軽く二度目の朝食を頬張った。ｄガリー大滝は既に多数のクライマーで渋滞している。我々は五尾根支稜の末端の取り付きへ行く。装備装着中、他パーティの話が聞こえてきた。「簡単なのは五尾根支稜だよ！ｄガリー大滝の方が登りがいが有るよ！五尾根じゃ面白くないでしょ？」。「ふ～ん、そーなのね」五尾根支稜は易しいのが分かった。本チャン初トップの当方としては、オープニングにはＯＫでしょ！と一人納得。五尾根支稜の１ピッチ目の終了点で、ｄガリー大滝の取り付きから五尾根支稜に登ってきたパーティと会った。彼らは我々より２時間も早く御池小屋を出たが、順番待ちで未だにここだと言っている！！「えっ！どんだけ混んでんだ！」と、ちょっとびっくり。３Ｐ目はロープを担ぎ（これはｄガリーなのかな？）を登る。この次が色んな意味で怖かった「バンドの横断」。何が怖いって自分が落ちるとかよりも、落石で他人に怪我をさせることの方が怖かった。ここまでも至る所で「ラクッ！」のオンパレード！このバンドの足場の悪いこと悪いこと、何処に足を置いてもズレて、崩れる！バンドの下を登ってくるパーティがいるので、登り切るまでしばらく待った。次回は通りたくないものだ。

さて、ここから四尾根取り付きへ行くために、藤野さんがルートを偵察する。リッジルートは満員御礼（笑）、ｃガリーは人の姿が見えないとのことで、ｃガリーからヒドンスラブを登ることになった。（五尾根支稜を登りｄガリー？に入り、ｃガリーからヒドンスラブを経由したことはナイス判断で、今回の北岳バットレス登攀成功の一番の要因だったと思う）藤野さんの計画では「１０時迄に四尾根の取り付きを出発できない場合は撤退」となっていたが、ヒドンスラブを登って到着したのは９：５０。取り付きの大テラスは超満員！　これより出発まで２時間以上も待つことになった。もう計画もクソもない状況になった。また、この２時間の間に好天だった空にもガスが出始め寒くなり、レインウェアーを羽織った。事前にネットで調べたところ、この取り付きからの１Ｐ出だ

しが核心との触れ込みも多く、更にギャラリーも多いことで緊張が高まる。周りの人と話をし、一生懸命緊張を解くことに努めた。そうだ！このテラス到着時、ちょっとしたハプニングがあった。我々のパーティは３人と２人の２組編成。自分は本チャン初トップ、それでも先行する突破力抜群のカトちゃんと、知見のある藤野さん組についていけば問題ないだろうと言うことで、ドキドキを抑えてきたが、このテラスで間に他パーティが２組も入ってしまい、頭の中で「え～っ！！まじかっ？！」の連呼。抑えていたものが弾けた（笑）。

そうこうしている間にようやく我々の１組目はカトちゃんをトップに、いよいよ四尾根主稜に取り付いた。カトちゃんは難なくクリアする（当たり前か）。（その際お助けスリングを残置して貰った。このスリングは意外と好評で、間に入ったパーティも活用していた）藤野さん、松山さんと続く。さー！いよいよ我々の順番が来た！（と言っても自分と深ちゃんだが）気合を入れて「あっ、ほいっ、ほいっ、よっと！」あれ？！意外と難なく行けた？（勿論、お助けなしで）３ヶ月前から、クライミングジムへ週４回通い詰めた甲斐があったなーと一安心。

難所を越えて見通しの利く所へ出たが、見えるビレイポイントには全てに人が（笑）。とりあえず安定した場所を探し、待ちの状態。この後は、ずーっとこんな感じだった。取り付きテラスから２Ｐ終了（細かく切っていたので実際は１Ｐか？）の小テラスでは、もうスペースが無いのに、続々と後続が上がってきて、大人しく待ってくれれば良いものの、先に行きたい気持ちが先行しているのか、前が空くと「早く行け行け」と急がし、しょーがないので登ってみれば、中間を２回も取れば立往生の始末、何回セルフも取れず待ったことか。何ピッチ目かは忘れたが、その時もセルフも取らず待っていると（ビレイヤーの深ちゃんには待ってのコールはしていた）、確かに５分、１０分、１５分と大分時間は経過していたが、いきなり深ちゃんが「ビレイ解除します!」、こっちは「？？？」、慌てて「ダメよ、ダメダメ！」。次に聞こえて来たのが「登りますよー」とか「登っていいですかー」のコール。空かさず大声で「何のコールもしてないよー！」「セルフも取れてないんだからー、ビレイ解除しちゃダメだよ！」「渋滞で先行けないから待ってー！」、半笑いで叫んでいた。直先のビレイポイントに居る先行パーティのお姉さんも笑いながら「急いでもしょうがないのにね」である。ま～多分、この時、深ちゃんは、せっかちな後続の「早く行けよ」のプレッシャーを受けてたんじゃないかな（笑）。周りの状況は、しっかりとガスの中、日差しは全く無く、待ちの時は寒くて脚の震えが止まらない。

やっとマッチ箱下降点のそばまで来た。終了点の城塞ハングが見えた。お～あともうちょっとだ、なんとかギリで日没前に行けるかと思ったのが、１６時だった。マッチ箱の上で下降するのに２～３０分待った。みるみる暗くなって行くのが分かりヘッデンを用意した。ようやく懸垂下降。一人が入れる程の空

洞に入り風をよけ順番を待ち（深ちゃんには悪いが・・・）。ようやく深ちゃんも降りてきて、狭いテラスで待機。やっと順番が来たので登りはじめ、次のピッチを切ったところで日没！ライトオン！本チャン初トップでナイトクライミングとなった（笑）。「マジかこれ！」と独り言を言いながら半笑いで登る！（「１０時迄に取り付きを出発できない場合は撤退」の意味がよく分かった）

さぁ！ラスト２ピッチ、ハイライトと核心だ！先ずは大崩落地点から城塞ハングへのトラバース。先行の藤野さんが「ハーケンが二カ所ある」と教えてくれたが、ネット上では「いやらしい」とか「ちょっと怖い」と書かれていたところだ。取り付いてみるとガッツリのガバでスメアも良く利き、なんか楽しいところだったが、真っ暗だったのが悔やまれる。

ビレイポイントで深ちゃんを待ち、さ一本当の核心の城塞ハングだ。とは言うものの、光はヘッデンのみだし時間も時間で、後続が数組、マッチ箱の下まで居るのは分かっていたので、時間を掛けて仕留めるわけにもいかず、先行のカトちゃんが残置してくれた数本のスリングをフルに使って上がるつもりが、最初の一手目のスリングが見当たらず（これは間に入っていた他パーティが回収してしまい、上で謝っていたらしいが、この回収した方は１５時間近く、ビレイポイントで御一緒だった関西から来ていたお姉さんで、翌朝御池小屋前で直接謝罪を受けた（笑））。焦った！フリーで行くかと決め、スタート。ヌンチャクを掛けロープをクリップ！？ロープが来ない！！「深ちゃん！ロープ出して！」、「ごめん」と深ちゃん。次手からは残置が有り、それを手掛かりに行くが、やはりロープが出ない？それでも何とか城塞ハングを抜けた。長かった登攀がやっと終わった。

と思ったがこの暗闇の中、北岳頂上と御池小屋までの帰路が残っていた。もう登りの足は残っておらず、ヘトヘト。頂上で写真を撮り下降開始、肩の小屋に着いたのは２１時すぎだ。病み上がりの藤野さんはここで泊まるとのこと。

小休止のあと藤野さんの見送りを受けて、一路御池小屋を目指す。もう帰るだけだと渾身の空元気を発動させ何とか、２３時にテントへ戻ることができた。「ビール」が飲みたい！が既に小屋の営業は終え、ガックリ。疲労で食欲も無く、今晩の宴会用に取って置いた、おつまみのさきイカをしゃぶっていたところに、深ちゃんが「飲む？」、とビールを手に持っている。一缶しかないが皆で飲もうと言ってくれた。カトちゃんは男気を見せ、「深澤さん、飲んで下さい」と遠慮したが、俺は「深ちゃん！ナイス！」と心の中で呟きながら、言葉では「良いの？」とちょっと遠慮を見せながら、ありがたく頂いた。最高に旨いビールだった。そうそう、ロープが出なかった理由を深チャンに聞くと、崩落部のトラバースが「チョー怖くて」、城塞ハングのビレイポイントでも滑りそうで、怖くて片手を着いていたためロープを送れなかった。と言うことだった（笑）。

この山行が終わった直後は、「もうバットレスは行かなくて良いかな」とも思

っていたが、少し時間が経つと、絶景と城塞ハングのフリートライの忘れ物に気付き、「次は平日に行かなきゃいけないな」なんてことを考えている。

＜メンバーの感想など＞

加藤

登山を始めて７年目。最近はクライミングの割合が多く一般登山はご無沙汰ですが、当初は北岳バットレスは「自分には関係ないなぁ」とか思っていたものです。２年前にクライミングを始めたきっかけはバリエーションルートを登りたいからでしたが、その時頭の片隅には北岳バットレスが散らついていたんですね。今回、朝日に照らされた圧倒的な大岩壁を目前にした時、フリーだとかアルパインだとか、そんな事はどうでもいい、ひとつの区切りと、今後の目標を示してくれたように感じました。自分が納得できる登攀。自分が納得できるルート。そして、自分が信頼できる、信頼してもらえる仲間。登攀の少し前に椿四十郎になった自分にはあまり時間がありません。これからの十年が正念場と思っていますが、うまくたずなを引いてくれるとありがたいです。

深澤淳

これまで外岩は、練習の日和田山しか知らない私でした。今回、なんと北岳バットレスが、私の初めての本格的アルパインクライミングでした。本当は段階を踏んで訓練するはずでしたが、天候不順やら何やらでダメだったので、しかたがありません。自分を信じて、そしてパーティの助けを信じて、かなりドキドキしながら臨みました。

スタートから大勢のクライマー達で大混雑でした。下部岸壁はなんとか藤野さんの判断で要領良くルートを迂回しましたが、第四尾根からは本格的に大渋滞にはまりました。人生最大の、高い、怖い、をこらえつつ、遅い、寒い、長いには、まいりました。引き返すのは無理。こんな岩壁の真ん中でビバークは嫌だ。最後は日が暮れて、まっ暗闇の中をヘッドライトで登ることに。

特に最後の城塞ハングへのトラバースはすっぱりと切れ落ちていて、泣きそうな怖さでした。強力メンバーのお陰で、長大な岩壁を登り切れたことに心から感謝です。北岳山頂が 20:40 という時間にもビックリ。御池小屋まで 19 時間の行動は新記録です。喜びもひとしお。一生の思い出になりました。

きっと私のターニングポイントです。クライミング最高！

國井さん、リードしていただき本当にありがとうございました。

松山

私にとって初登攀行にして１日の行動時間が最長となった山行です。5 つのキーワードを選んでみました。

仲間：熟練のリーダーのもと、経験も個性も様々な４人が好チームワークを発揮。長大な待ち時間にも退屈せず、暗闇のチムニーもなんとか切り抜けさせて頂きました。

エチケット：バットレス下部の崩壊は激しく「ラクッ！」の声鳴り止まず。落石を誘発しない登り方は最低限のエチケット。

気象：高峰では動いていなければ曇っただけでも凍える。防寒具に手抜きは禁物。

順番：誰しも安全に早く登りたい。先着順は鉄の掟。他パーティへの配慮は ないのが当たり前という非情な世界。

露出感：3,000m 超の絶壁の高度感は格別。かしましギャラリーを背にするクライムでは華麗にゆきたいもんです。初心者の私に課題は多かったけれど楽しい経験でした。

＜藤野より＞

北岳バットレス四尾根は４度目ですが、今回が一番印象深かった。その訳は、

① 実施の１０日ほど前から体調を崩し、４日間も寝込んでしまったことです。こんなに長い間床についたことは記憶になく、中止しようかと思ったほどでした。数日前にまあ何とか行ける程度に回復したので、ＧＯ！としました。

② 最近大きく成長してきた若手の加藤さん、國井さんの二人に、全ピッチリードして貰ったこと。

当初の計画では二組で登ることにして、一組目は私が全ピッチリードすることにしていましたが、体調が不安で、検討の結果「加藤―藤野―松山」、「國井―深澤」の二組編成としました。リードを任せた二人ともジムや外岩で練習量は十分。二子山西岳中央稜も一緒に登攀し、マルチピッチもこなせるようになったので大丈夫と判断しました。

結果、二人とも見事、下部岸壁を含め、全ピッチをリードしました。

③ 当日は大渋滞で待ち時間が長く、ヘッドライトを点けてのクライミングとなり、記録的な長時間行動になってしまったこと。

④ アルパインが初めての深澤さん、松山さんの二人も無事登攀できたこと。

等です。

若手が成長してきたのは楽しく嬉しいものです。

●大崩壊の前と後

枯れ木テラスの上部は２０１０年１０月、大崩壊しました。今回、実際どのようになったのか、初めて目にしました。自然の摂理とは言え、驚きと恐れを覚えました。

かつての四尾根の最後のピッチは、枯れ木テラスから上部へ３０ｃｍほどの亀裂をまたいでスラブ（Ⅲ＋）を２０－３０ｍほど登り、城塞ハングの手前の亀裂までででした。亀裂の手前に終了点があり、終了点のちょっと右先にあったＣＳを踏んで、靴脱ぎ場に向かったものです。最終ピッチのこの巨大な岩、いったいどのくらいの体積、重量があったのか想像もできませんが、その巨大な岩が完全に消失していました。枯れ木テラスより逆コの字型に入っていた亀裂から、崩壊したのだろうと思われました。崩壊面はまるで豆腐を包丁で切ったように、スパッと切れていました。

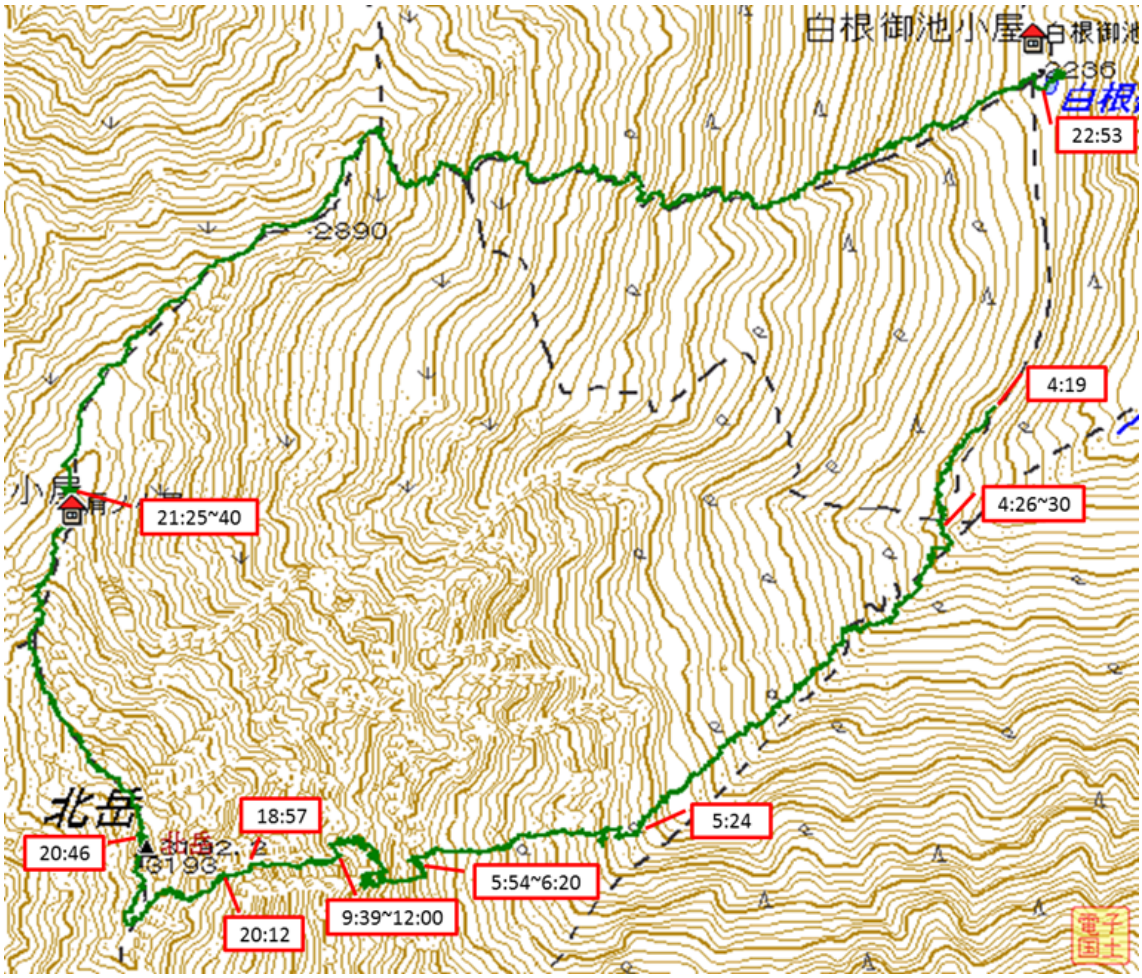
かつて四尾根から中央稜を継続登攀したとき、枯れ木テラスより岩壁沿いのバンドを１０ｍほど行ったところに、懸垂下降の支点があり、そこから４５ｍの懸垂下降をして中央稜に取り付いたものでしたが、その岩壁はもう無くなっていました。

現在の四尾根は、枯れ木テラスより、ｄガリー奥壁・城塞ハングの最終ピッチにつなげて登攀することになります。枯れ木テラスより城塞ハングに向かって、断面が直角三角形のようなって残った岩の稜線をホールドにして、ｄガリー側の斜面に足を置いてトラバースします。高度感はありますがホールドはカバで、足下は小さいですがスタンスもあり、フリクションも良く効きます。

５０－６０ｃｍほどの亀裂をまたぎますが、その前後に残置ハーケンがあります。またぐと直ぐに城塞ハングの取り付きです。

最終ピッチのチムニーは残置ハーケンが何本かありましたが､1 本はグラついていました。既に日没で早く登らなければならないこと、またあちこちつかえて登りにくいこともあって、Ａ０で登りました。このチムニーが核心と思います。このチムニーを抜けるのに時間がかかることも､渋滞の原因と思いました。チムニーを抜けたところに這松があり､這松でビレイできます。なお従来の「靴脱ぎ場」は健在です。終了点より岩場を歩いて行くと到着します。

第四尾根は崩壊前より変化に富み、面白くなったと思います。グレードも上がりました。北岳バットレスが今後また崩壊しないことを祈ります。



＜コースタイム（14 日のバットレスは大渋滞で、参考にはなりません＞

1 日目（9/13 土）: 広河原 11:40－14:30 二俣分岐－14:50 白根御池小屋

2 日目（9/14 日）: 白根御池小屋 4:00－4:25 二俣分岐－5:55 五尾根支稜取り付き 6:20－9:40 四尾根取り付き 11:50－15:10 マッチ箱懸垂地点－16:20 マッチ箱のコル－17:15 枯れ木テラス－城塞ハングの取り付き－19:40（２組目の到着）城塞ハングの終了点 20:10(後続パーティを待つ)－20:45 北岳山頂－21:25 肩の小屋 21:40－23:00 白根御池小屋

3 日目（9/15 祝）白根御池小屋 8:30－ 10:00 広河原

注：バットレスは、我々の１組目と２組目の間に他パーティが二組入っていますが、時間は１組目の時間。例外は（　）内に記載。